

校 園 長 室 か ら



学校教育目標

共に学び共に伸びる子ども

- ・いのちを大切にできる子ども
- ・だれとでも仲良く協力し合う子ども
- ・意欲をもち学習する子ども
- ・ねばり強くはたらく子ども

令和 7 年 1 月 30 日 第 41 号

北の国から

寒い日が続きます。最近はじめた湯たんぽのおかげで暖められた布団に入ることが楽しみのようになっていますが、「湯たんぽ」で思い出すのがドラマ『北の国から』。若い先生に「知ってる」と聞くと「聞いたことがあります」とかえってきて、だれも見ることがない。

黒板五郎という北海道育ちのお父さんが大都会東京で夢破れて、長男の純と妹の蛍を連れて、北海道で生活を始めるところから、お話はスタートします。その初期のころのシーン。夜は零下 10 度を超える富良野の山の中で一夜を過ごすのに布団だけでは寒い。そこで石を焼いて熱くしてそれをタオルでぐるぐる巻きにして、布団の中に入れて眠る。

湯たんぽならぬ「石焼き」って言っていたと思います。

このドラマは大ヒットして、ドラマで使われた家のセットがそのまま観光地になったり、さだまささんの音楽が歌詞も無いのにヒットしたり、観光バスが家のセットめがけて犇(ひし)めくように富良野の街を進んでいました。

先日、湯たんぽの準備を終え、布団が温まる間、ふと『北の国から』の観光地が気になって調べてみてびっくり。

大観光地だったその家々はすべて壊されて、草が生える広場に代わっていました。じっくり考えれば、今は令和。平成の 30 年も終わっていますので昭和のドラマなどは、もう骨董品かもしれません。ただ、人として大事なことがたくさん詰まっていたドラマでもあったので、本当に残念です。

まだ見ようと思えば見れる時代でもあるので興味のある方は是非、と言いながら当時放送されていたときに、私は見ていません。その裏番組の『子連れ狼』を見ていたから。「五郎よりも大五郎よ」って言ってもわからんわな。